

知っていますか？「マイクロアグレッション」

「マイクロアグレッション」という言葉が注目されています。直訳すれば「小さな攻撃」。日常生活に潜む“差別したり傷つけたりする意図はないのに、相手の心に影を落とすような言動”をいい、**人種やジェンダー、性的指向などのマイノリティーに対する「日常的な差別や見下し」と定義されています。**

下に掲載したのは、今年度の香川県人権啓発ポスターです。一見すると褒め言葉と思える発言も、個性を評価していると思える発言も、言われた側からすれば「もしかして馬鹿にされているのかな？」と感じてしまう。このように、誰もが加害者としても、被害者としても当事者になりうるのがマイクロアグレッションです。マイクロアグレッションを受けた人は「気にしすぎでは」と言われることも多く、周囲に相談もしづらい。それが日常的に繰り返されるため、**心身への影響は非常に大きい**と言われます。

マイクロアグレッションを研究している丸一俊介さんのコメントを紹介します(東京新聞 2022年11月21日の記事より)。「**マイクロアグレッションを知ることは、自分の中にある偏見と社会の不正に気づくチャンスだ**と思ってほしい。本当はすでに誰かを傷つけていて、相手が我慢しているだけかもしれません」『差別に気を付けよう』と一人で頑張るのではなく、職場など**所属するコミュニティでマイクロアグレッションという概念を共通の課題とすることが大事です。**『この言葉って嫌じゃなかった?』と聞けたり、『実は嫌な思いをした』と話せたりする環境にできるといい」**「みんなで考え、無意識の偏見に気づくことが大切なのです。この社会には多様な人が暮らしていると気づき、まだ想像できていない部分があると認めること。それこそが、マイクロアグレッションをなくすための、まずは第一歩なのではないでしょうか。**



なにげない一言で、傷つく人がいます。

私たちの社会環境は変化し、多種多様な価値観を尊重する人が増えています。
多様性を受け入れ、理解するのは簡単なことではありませんが、
そんな風に感じる人もいます。『**まず知ること**』から始めましょう。

「誰か」のことじゃない。～みんなで築こう 人権の日記～ 香川県・香川県人権啓発推進会議 [たのしみ人権だより] [様式] 香川県人権啓発推進会議

↑引用元：香川県人権啓発ポスター
(香川県・香川県人権啓発推進会議)
この記事と併せて、香川県総務部人権・同和政策課のホームページを必ずご覧いただきますようお願いいたします



シーン1 女性の場合

「家事しながら、社長なんてほんとすごいよ！」
賞賛と思ひ発した言葉かもしれないが、当人にとってはごく当たり前のこと。受け手にとっては、それって男性にはそんなこと言わないでしょ。女性だからすごいって言ってるの?と受け取られてしまうことも。

シーン2 外国人の場合

「上手におはしでうどん食べるのね～！」
香川県に来て10年目の彼女にとってうどんを食べることは日常。それをことさら上手と言われ困惑。見た目が外国人だからこんな声をかけられてしまうのか。少しモヤッとしてしまう瞬間である。

シーン3 LGBTの場合

「男女どっちの気持ちもわかるんじゃないん？」
トランスジェンダーだからそう言ってるの?良好な関係性が前提の、軽い冗談のつもりかもしれないが、両方理解できるわけではない。そもそも男女の気持ちって、そんなにハッキリ分かれるものなの?

シーン4 障害者の場合

「お一人で遠いところすみません!大変だったでしょう?」
車いすで社会生活を営んでいる彼女にとって、仕事で相手先に何うのは普通のこと。それに対し、この言葉はねぎらいの気持ちではあるのだろうが、要らぬ同情をされているようで人によっては違和感を覚えてしまう。

↑ 引用元：香川県人権啓発チラシ裏面
(香川県・香川県人権啓発推進会議)

2学期人権・同和教育LHR（学習内容の紹介）

1年生

① 障がい者の人権

身近なところにある「ユニバーサルデザイン」を題材に話し合う活動をとおして、「共生社会」を実現するために“自分自身にできること”について考えました。さまざまな立場の人に気づき、気づかい、自然に支え合う“心のユニバーサルデザイン”を、一人ひとりが意識することの大切さを学びました。

② ハンセン病回復者の人権

ハンセン病問題の歴史や現状について、香川県高松市大島にあるハンセン病療養所「大島青松園（おおしませいしょうえん）」などを題材として学びました。無知に起因する「偏見」（差別の温床となる）を生み出さないために、まずは「正しい知識をもつ」こと。そのうえで「差別をなくすために自分はどう行動するか」について考えること。これらがあらゆる人権問題を考えるうえで共通する大切なことであると学びました。

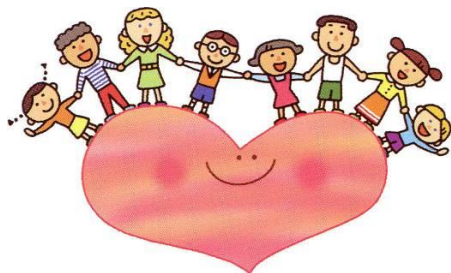


大島青松園にあるモニュメント「風の舞」
大島で亡くなった人を火葬し、納骨した残りの骨が納められています

2年生

同和問題に向き合う（2時間）

1時限目は、まず人権に関する“グローバルスタンダード”である「世界人権宣言」を読みました。人が生きていくためになくてはならないものが人権であり、だからこそ、自分の人権を侵害されないために、他人の人権を侵害しないために、学ぶことが大切であることを再確認しました。そして「日本国憲法」の第14条（法の下での平等）、第22条（居住・移転・職業選択の自由）、第24条（婚姻の自由）それぞれの意味について一人ひとりが考える活動をとおして、どの条文にも共通しているのは“個人の自由と権利が尊重されること”の大切さであることを知り、次時へとつなぎました。



2時限目には、結婚差別の問題にもつながる学習として、自分が人間関係を築いている相手との大切なつながりについて、もし他人からとやかく言われたら……？という題材を中心に、一人ひとりが“自分ごと”として考えました。「あなた自身が他人からとやかく言われて不快な気持ちになる項目」を考えた後、そこから「他人からとやかく言われるのは絶対におかしい・許されない項目」を選んでいきました。さらに「差別や人権侵害につながると思われる項目」を考えるなかで、同和問題が私たち一人ひとりの人権に直結する問題であることを確認しました。

3年生

① デートDVについて

DV（ドメスティック・バイオレンス）の中でも、特に交際中の相手から受けるさまざまな暴力を「デートDV」とよびます。身体的な暴力だけではなく、「言葉による暴力」や「心理的な暴力（必要以上の干渉や束縛）」なども含まれ、いかなる理由があつたとしても決して許されません。互いの人格が尊重された“自分も他人も大切に”人間関係のあり方について考える活動をとおして、人権がだれにとってもかけがえのないものであることを、改めて確認しました。

② ジェンダーについて

社会によってつくりあげられた「男性像」・「女性像」といった、社会的・文化的につくられた役割としての性別 [=ジェンダー] について考えました。この授業では、「他者理解 [=エンパシー]」・「他者の靴を履く」という言葉をキーワードに、“その人の立場だったら自分はどうか？”と相手のことを想像できる力（すなわち「相手の立場に立つ」という人権の基本）の大切さについて確認しました。だれもが個性と能力を十分に発揮できる社会をつかっていくためには、性別だけを理由に、個人の意思に反して役割を固定的に決めつけるのではなく、それぞれ個人の主体的な選択が尊重され、多様な選択ができるようになることが大切です。あと数か月で琴高を巣立ちゆく3年生のみなさんには、固定観念 [=無意識の偏見] にとらわれない生き方をしてほしいと、心から願っています。

